

地酒と観光を首都圏へPR 豊島区百貨店で出展イベント

内子町は2月14～20日、企業組合「内子ツーリズム」と提携し、豊島区内の百貨店で「ふるさと内子の地酒と観光案内」展を開きました。

地酒の試飲コーナーでは、かんきつ類と日本酒をブレンドしたりキュールやどぶろく、純米吟醸

酒などが人気を集め、連日完売。バイヤーや百貨店との商談が成立するなど、販路拡大に向けた足掛かりをつかみました。町は、豊島区の観光物産交流都市として今後も積極的に情報を発信し、首都圏へのさらなる販路拡大を目指します。



さまざまな種類の地酒が勢ぞろいし人気を集めた試飲コーナー

25年度から小学4年生以上の児童と中学生に配布される環境教育副読本『ふるさと』



身近なエコ活動に取り組もう 内子町環境教育副読本を発行

豊かな自然と美しい景観が残る内子町を次世代へ引き継ぐために、環境教育の推進に役立てようと、町と教育委員会、教育研究所が共同で環境教育副読本『ふるさと』を発行しました。

小・中学校の教員や町職員が中心となり、各地

域の自然や人々を取材。環境のために自分で行うことができる身近なエコ活動について学び、考える内容となっています。

小・中学生向けですが希望する人は購入できます（一冊500円）。詳しくは、学校教育課 ☎0893(44)2124まで。

いま一度、命の大切さを感じて 町人権・同和教育研究大会開催

「平成24年度内子町人権・同和教育研究大会」（内子町教育委員会、内子町人権教育協議会主催）は3月2日、内子町共生館で開かれました。

はじめに柴中隆佑さん（五十崎小5年）、森岡千歳さん（小田中2年）、内子高校人権委員会の生徒が「人権メッセージ」などを発表。ひいおばあちゃんの死から学んだ命の大切さ、女性が野球部

に所属することを感じた差別などについて、力強く意見を述べました。

続いて元フリーアナウンサーの道志真弓さんが講演。難病を患った娘・弓華ちゃんと共に過ごした8年8カ月を振り返り、命の重さを訴えましました。またシンガーソングライター・うーみさんが「人権コンサート」を開き、運動中の事故で障がいを負った自身の経験から、命のつながりや生きることの大切さを歌で伝えました。



1_懸命に生きた弓華ちゃんの姿を伝える道志真弓さん 2_命の大切さを歌ううーみさん

突合橋～水元橋の0.5キロが完成 寺村バイパス全線の供用を開始



愛媛県が整備を進めていた吉野川地区から日野川地区を結ぶ国道380号寺村バイパス（4.9キロ）のうち、最終整備区間の突合橋から水元橋まで（0.5キロ）が完成し3月24日、開通式が行われました。

昭和63年度に着工し、平成21年度までに4.4キロを供用。今回の全線開通により、走行時間が約6分短縮されます。急峻でカーブが多い地形のため、4.9キロの区間に13の橋を設置。総事業費

は約85億円で、今回の開通部分にかかる費用は6億6千万円となっています。

式には県内選出の国会議員をはじめ愛媛県、砥部町、久万高原町などから多くの関係者が出席。稲本隆壽内子町長は、「全線開通によって利便性が向上し、救急医療体制の充実や、農林業をはじめとする産業の活性化につながる。また合併後の町の一体化が進み、新たなまちづくりが進展するこ

1_開通を祝うテープカット 2_式典には多数の関係者が列席 3_親子や三代家族などによる通り初め 4_梅津側から見た開通部分。中央が突合橋。奥が小田方面

「内子町を描く絵画展」 入賞者から町へ作品を寄贈

2月に開かれた公募第24回地展「内子町を描く絵画展」（内子町、NPO法人地域美術展協会主催）で愛媛県知事賞を受賞した菊地保男さん（71）＝松山市＝から、このたび内子町へ作品が寄贈されました。

菊地さんは昭和35年、愛媛県警に奉職。25歳から油絵を学び始め、平成13年に大洲警察署署長として定年を迎えた後、本格的に絵画活動をスタートしました。これまで地



寄贈者の菊地保男さんと作品「深山の清流」

展4回、県展8回入選。市内のギャラリーに毎月作品を発表するなど、精力的に活動しています。寄贈された作品は、今回の地展のために描いた中の一枚で、新緑が水面に映える小田深山溪谷の美しい風景を描写。今後、道の駅「小田の郷せらぎ」に展示されます。菊地さんは、「作品を展示していただけることになり光栄。多くの皆さんに見てほしい」と話していました。